

一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせる授業の展開

— 3年 学校のまわりのようす —

南小	金井雅博	大橋小	荒井哲郎
富田小	島田あけみ	梁田小	川島宗竹
毛野南小	秋山年克	御厨小	小堀峰子

はじめに

栃小教研社会部会では平成3年度から、研究主題「一人一人の社会的なものの見方や考え方を深め合う社会科授業の創造」について、県内12支部で3か年の継続研究を進めてきた。3か年の各年度に副主題を掲げて、実践研究に取り組んできたが、平成5年度は副主題に「一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせる授業の展開」を掲げ、特に「まとめる」段階に重点をおき、社会的なものの見方や考え方の定着化を図るための指導の工夫について研究を進めることになった。

足利支部では、昨年の研究成果を引き継ぎながら、研究分担である3学年の単元の中から「学校のまわりのようす」を取り上げ、実践研究を進め提案資料を作成した。第39回栃木県小学校社会科教育研究会（塩原大会）での提案資料はB4用紙7枚と児童の作品2枚であったが、ここにまとめるにあたって、幾分割愛した。重複する部分を省略し、また、主に対象児童の実態や対象児童への支援や変容とそれに対する考察などを中心に構成することにした。

1. 小単元名 学校のまわりのようす

2. 学習指導要領の目標及び内容の分析

本小単元「学校のまわりのようす」は、社会科第3学年の目標(2)と(3)の関連をふまえて、内容の上に設定されたものである。

目 標

- (2) 地域の人々の生活は、自然環境と結び付いて営まれており、地域によって消費生活や生産活動に特色があることや人々の生活は変化していることを理解できるようにし、地域社会を大切にす態度を育てる。
- (3) 地域における社会的事象を具体的に観察し、地図その他の具体的資料を効果的に活用することができるようにするとともに、地域社会の社会的事象の特色を考えるようにする。

内 容

(2) 自分たちの市(区, 町, 村)の特徴ある地形, 土地利用の様子や集落の分布, 交通の様子などについて観察したり地図に表したりして, 地域の人々の生活は自然環境と深い関係があることや場所によって人々の生活には違いがあることを理解できるようにする。

本小单元における地域とは, 授業者のいる足利市立富田小学校の学区とし, 本小单元は, 人々の生活が自然環境と結び付いて営まれていることを理解させることを主なねらいとしている。さらに, このことを通して地域を大切にすることを育てることが最終的なねらいである。

人々の生活が自然環境と結び付いて営まれていることを理解させるためには, 学区を直接観察させることが必要である。生活科での学習経験を生かし調べてみたいという児童の意欲を高めさせ, 適切な観察のポイントを与えたならば, 効果的な観察がさせられるであろう。また, その結果を絵地図として表現させることによって, 学習内容を定着させることが容易になると考えた。さらに, 小单元のまとめとして, 学区のことを知らない人へのパンフレットづくりへと発展させることによって, 人々の生活が地域の自然環境と密接に結び付いていることの理解にとどまらず, 地域社会を大切にしようとする心情をはぐくめるのではないかと考えた。このような一連の学習活動をすることで, 社会的思考や判断力をも育てられるのではないかと思う。

3. 地域及び児童の実態

- (1) 地域の実態 (略)
- (2) 児童の実態 (略)
- (3) 対象児の実態

観点	意欲・関心	知識・理解	経 験	学習適性	社会的事象に対する 見方や考え方
児童	学習意欲や関心の高さ	学習内容に関わる知識	生活経験や学習経験	教材形態や学習形態	
対象児 A	発表が多く, 大変意欲的である。見学等, 体験的な活動を特に好む。	地区にある主な山・川の名前を知っている。また, 駅の名前も知っている。 東西南北もわかる。	母親がゴルフ場に勤めているためその印象が特に強い。大小山にもよく登っている。	グループ活動を好むが, やや集中力に欠ける。活動中, 自分の考えを物おじせず主張することができる。	社会的な事象に関心はあるものの, 捉え方が一面的である。自分の住んでいる町内については, 知識も豊富であるが, それ以外の所については関心が薄く, 土地利用についてもよく捉えていない。
対象児 B	挙手・発言は少ないが, 調べる学習やノートにまとめる作業等意欲的に取り組んでいる。	地区にある主な山・川の名前を知っている。道路や鉄道についてはわからない。 東西南北は知っている。	生活科の町探検が印象に残っている。学区に多く出歩いているわけではないが, 田の多い所, 土地の高低については, だいたいわかっている。	一人で活動することもグループで活動することも好む。少人数だと自分の考えを主張しやすいようで, グループの友達を引っ張っていきける。	土地利用の様子や使われ方など, 知識はあるが, 直接的な体験が少ない。そのためか, 自分の考えに自信が持てないことがある。

4. 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

- ・学校の周りの地域の様子を進んで観察するとともに、地区のおよその景観をつかみ、地理的位置を確認したり地形の特徴などに気づいたりすることができる。
- ・学校の周りの地形や土地利用の様子、集落の分布、交通の様子を簡単な絵地図に表し、さらに自分なりにとらえた地区の特色をパンフレットにまとめることができる。

(2) 小単元の評価規準

- ・学校の周りの地域の様子について関心を持ち、それらを意欲的に調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・学校の周りの地域の地形と土地利用の様子や、交通と住宅地の分布の関係などについて考え、さらに自分たちの住む地区の将来の発展を願う。
(社会的な思考・判断)
- ・日常の観察や学校周辺の見学からわかったことをメモし、それを絵地図にわかりやすく表現する。
(観察・資料活用の技能・表現)
- ・学校の周りの地域の地形の特色について理解し、それをパンフレットにまとめる。
(社会的事象についての知識・理解)

5. 展開計画

(1) 展開計画と社会的なものの見方や考え方(略)

(2) 児童一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせるための単元の展開の構想と指導の工夫

すぐれた授業をつくり出すためには、教材の選択や構成といった教材研究を深めていくことは非常に大切なことである。教材によって児童の追究のしかたは大いに変ってくる。しかしそれだけでいい授業ができるとは限らない。教材を実際にどのような刺激として児童に与えるか、ということ意識することが実は非常に大切なことなのである。これは、発問、指示、指名、板書、教具、討論の組織等、現実子どもと向き合う場面での教師の児童に対する多様な働きかけ、つまり教授行為のことである。教授行為の研究は、教材研究に比べて付随的な研究とみなされがちだが、すぐれた授業をつくり出すためにはすぐれた教材と適切な教授行為が必要であるとする。本小単元の場合、教材としては学校を中心とした学区そのものであるから他に選択の余地がない。そこで、教授行為「どのように教えるか」「どのように気づかせるか」といった単元展開計画レベルでの工夫が、児童一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせることにつながると考えた。

ア 児童の社会的事象に対する関心や追究意欲を高めるための指導の工夫

学区の身近な場所の位置を確認させるが、真ん中に学校だけをかけた模造紙を提示して話し合わせる活動を導入とした。このことによって、地図で表現する時に必要なこととか、決

めておくことと便利なこと、つまり方位や道路などを児童から気づくことができ、次の観察・調査活動の時にルートマップが必然性を持って受け入れられると考えた。

イ 確かな事実認識を基に、社会事象の持つ意味を考えさせる学習指導の工夫

学校の周りの様子を小グループで調べたい所を観察させ、まずそのグループで歩いた所を絵地図にさせる。次に、その小グループで作った絵地図を基に、クラス全体で一枚の大きな絵地図を作り上げる活動を取り入れた。友達の調べたことをお互いに吟味し合うことによって、友達の調べたことの良さや小グループだけでは分からなかった見方に気づくことができると考えた。また、自分たちが調べたことが確かなものであることを知ることも大切なことと考える。

ウ 社会的事象を公正に判断させるための学習指導の工夫

実際に歩いて観察した時に書いたメモをいくつか取り上げて、クラス全体で作った一枚の大きな絵地図のどこで書いたメモか、どの辺の様子を述べているのかを見つける活動を取り入れた。メモの内容の是非を問うとよく答えられない児童も「どこか」という場所を問うことで、大きな絵地図で探すことができ、メモの内容、つまりひとつの社会的事象に対する見方や考え方をみんなでより確かなものにする話し合いができると考えた。

エ 社会的なものの見方や考え方の定着化を図るための指導の工夫

「まとめる」の次に「広げる」段階を設定した。これはオープンエンドを志向したもので実際には友達の良さを取り入れたり、願い・想いを持ったりするものである。ここでは、単なる想像ではなく、現状を認識しつつ自分の地域の発展を願って、何か願いを入れた地域のパンフレット作りという活動を考えた。この願いは、自分の生活から出たその子らしい子供らしい発想で良いと考える。また、作品の発表の工夫としては、制作途中でも全員机の上に自分の作品を広げ、3分程度自由に友達の作品を見て回る活動を何回か取り入れることにした。このことで、友達の良さを認め合うだけでなく、作品に取り入れられると考えた。

6. 対象児童の社会的な見方や考え方を身につけさせる構想・支援と対象児童の変容

◎対象児童に対する支援 ◎対象児童の反応

段階	時	学習活動・内容	社会的な見方や考え方のもの	A	見	B	児
1	1	自分たちが行ったことがある所が白地図のどこにあるかを話し合い、学区の様子について関心を持つ。 ・学校だけ記入した地図で話し合う ・道路や学校を記入した地図で話し合う ・屋上から観察して、学校の周りの土地の様子を観察してみ、気づいたことを話し合う。 ・四方位の確認	・身近な場所をかんたんな地図に表し、さらに調べる意欲が持てる。 ・四方位を使って学校周辺の景観をつかみ、さらに調べる意欲と見通しを持つ。 ・土地利用の様子を観察する観点が持てる。	◎A児が関心のある北の方について意図的に指名して、意欲を持たせる。 ◎意欲的に挙手をして、「山がゴルフ場に使われている」など北の方の土地の様子を発表した。 ◎よく知らない東から南にかけての景観をつかませる。 ◎四方位を自分から指摘し、南の方もよく見ているが記録はあまりできなかった。 ◎生活圏内である場所をより細かく観察してよく言う助言する。 ◎観察の意欲はあるが、乱点が十分定まらなかった。	◎位置を表すのに必要な道路や目印になるような建物に気づかせる。 ◎目印として「道路」「建物」があると、よく場所がわかるかとノートに書く。 ◎方位を確認し、屋上から観察したことを絵や言葉でまとめさせる。 ◎四方位ごとに意欲的に観察した。		
2	1	学校の周りを観察する計画を立てる ・調べたいこと ・調べたいところ ・学校の周りの様子をグループで歩いて観察し、地図にかく。 ・かんたんにスケッチする ・気づいたことをメモする	・歩いて見たこと、聞いて分かったことをメモやかんたんな地図にかける。	◎観察してききたことをよく思い出してメモや地図に表すように助言する。 ◎自分のよく知っている地区を探検したので、書かなくとも分かると考えて、あまり記録しなかつたと思われる。	◎観察の視点がはっきりした計画が立てられた。 ◎観察したところの土地の様子を意欲的に観察してよく言う助言する。 ◎「家が多かった」「神社があった」「ゴルフ場が近くにあるので道路が広くなった」など気づいたことが意欲的に書けた。 ◎分かりやすい絵地図を作るよう工夫させる。		
3	4	グループで観察したことを絵地図にする。 ・グループでかいた絵地図から、クラス全体の話し合いで大きな絵地図にまとめめる。	・歩いて見た様子、聞いて分かったことを方位や距離に気をつけて地図にかける。	◎仕事を分担し、友達と協力しながら絵地図作りができるように、自分の仕事を確認させる。 ◎探検したことを絵地図に表す活動では、「ここは田んぼだ」「ここは家だ」など発言はしていたが作業は進んでできなかった。 ◎四方位に分けて、土地の高さや利用のしかたのちがいを自分の言葉でまとめさせる。 ◎「西は土地が高い」「東や南は土地が低い」など土地の高さのちがいについてはとらえられた。	◎場所や様子を確認しながら、ていねいに作業していた。 ◎場所によって土地の使い方にちがいがあること気づかせる。 ◎土地の様子はとらえられたが、方位を使って表すことはあまりなかった。		
4	2	大きな絵地図をもとにして、自分のスケッチやメモから学校の周りの様子を話し合う。 ・田や畑の多いところ ・店の集まっているところ ・家の集まっているところ ・大きな絵地図を見ながら、まとめたことを確認する。 ・自分の住んでいる地区のイメージをパンフレットに表し、紹介する。	・自分が住んでいる町のくらしの発展に関心を持つ。	◎地域全体の様子をつかんだパンフレットを作らせる。 ◎道路の様子や土地の高低などはとらえられたが、町の発展までには目が向かなかつた。	◎地域全体の様子をはっきりとつかみ、自分の夢をいれたパンフレットができた。		

7. 本時の指導(略)

8. 授業の実際

(1) 授業の記録

段階	主な学習内容・活動	○対象児の反応		○対象児に対する支援	
		育てたい社会的事象に対する見方や考え	社会的なものの方や考え方を育てるための支援	A 対象児の反応と教師の支援、学級児童とのかわり	B 見
ま	1 本時の学習を知る。 学校のまわりは、どんなふうになっていったらう。				
と	2 絵地図を完成する。				
と	3 完成した絵地図やメモをもとにして、学校の周りの様子を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 富田地区には田んぼや畑が多い。 ○ 田んぼや畑は、富田地区の南の方に多い。 ○ 家が集まっているところは、富田地区の東や西の方だ。 ○ 旧国道に沿ってお店がある。 ○ 富田地区の北や西の方には土地の高い所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員を黒板の前に集めて、意欲を持たせる。 ○ 富田地区の航空写真を見せる。 ○ 2年生の時に作った生活科の地図を印刷したものを配る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「(未完成の地図の)何もかいていない所に田んぼとかがある。」と発表する。 ☆ 田んぼや畑の集まっているところでは下の方だという友達を発表を聞いて「本当だ、たくさんある。」とつぶやく。 ○ 「東西南北を使えばいい。」と発表する。 ○ 「人が多いから家が多い。」と発表する。 ○ 「交通の便がいいから家が集まっている。」と発表する。 ○ 「旧国道に沿ってお店が多いのは、真がたたくさん通って、集まっている人が買物をするのに近くだから。」と発表する。 ◎ 学校の周りの様子のうち、抜けているものを書き加えるように助ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図はまだ未完成であると善手する。 ○ 指名されて、田んぼの位置を正しく示す。
め	4 学校の周りの様子を自分なりにまとめる。				
る					
広	1 学校の周りの様子について発表し話し合う。				
げ	2 学区の様子と自分の願いを入れたパンフレットを作る。				
る	3 次時の予告を聞く。				
<p>身につけることのできた社会的なものの見方や考え</p> <p>道路の広がり方、土地の高低など今まで気づかなかった地区の特色を、自分の生活経験と結びつけて、パンフレットに書き表わすことができた。</p>					

(2) 考 察

ア つかむ段階

真ん中に学校だけをかいた模造紙を提示して学区の身近な場所（公民館、駅など）の位置を確認させる話し合いを導入とした。このことによって、方位や道路などの必要性に児童から気づくことができるとともに、学区の様子に関心を持たせられると考えた。

A児…「学校だけの地図でもわかる」と、喜んで活動していたが、あまり正確ではなく、友達から「ちがうな」と言われ自信をなくしていた。次の道路を記入した地図を使っての話し合いでは、今度は自信を持って活動していた。A児は地図における道路などの必要性を実感できたのではないかと思う。

B児…「学校だけの地図だとわからない。目印として道路や建物があるとわかる」と地図の表し方について考えていた。また、「南の様子はどうなっているのだろう」と関心も高まっていた。

イ 調べる段階

小グループで作った絵地図を基に、クラス全体で一枚の大きな絵地図を作り上げる活動を取り入れることで、より確かな事実の認識ができると考えた。

A児…発言やつぶやきが多い。内容もほぼ正確で、活動をリードする場面も見られたが、実際の作業はあまりしないので、教師からの指示で作業した。

B児…小グループで絵地図を作る活動で、友達と土地の様子や場所を確認しながら、ていねいに作業できた。

ウ まとめる段階

実際に歩いて観察した時に書いたメモをいくつか取り上げて、クラス全体で作った一枚の大きな絵地図のどこで書いたメモか、どの辺の様子を述べているのかを見つける活動を取り入れた。

A児…友達の発言に対して、「東西南北を使えばいい」と発表する。

B児…友達の発言に対して、よく聞き入っているのだが発表はなかった。

エ 広げる段階

パンフレット作りはオープンエンドを志向したもので、地域の発展を願う心情や実践へつながることを期待して設定した。また、作品を発表し合うことで、友達の考えの良いところに目を向けさせる機会がふえると考えた。

A児…パンフレットには自分の願いを地図にかくことはできなかった。まだまだ自分の考えにこだわってしまい、他の人との関わりという点で広がりやがなかなか持てないA児なので、地域にまで目を向けられなかったと考えられる。学区の素晴らしいところにもふれる活動を少しでもとれば、「もっと良くしよう」と地域に目を向けられたかも

知れない。しかし、とらえるのがむずかしい土地の高低に注目していることや、道路を詳細に描き、自分のよく行く店を入れて、自分の生活をふりかえっていることが良いと思う。自転車などでよく歩き回っているA児らしきが出ていていると思う。

B児…パンフレットには土地の高さや様子、また、地域に対する願い「山の中にアスレチックを作りたい」、「川をきれいにして泳ぎたい」がかけた。B児は学習内容はほぼ理解でき、しっかりした考えも持てる。しかし、友達の良さをもっと認めたり、意見交換が積極的にできたりするとさらに素晴らしい。「社会的なものの見方や考え方を身につける」ことが思考・判断といった内面的なものだけにとまらず、意欲や態度・実践までも包括するものであるならば、教材と児童とのかかわりはもとより、対人的なかわり「共感」とか「自立」などをキーワードに日常の授業を充実することが必要かと思う。

9. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究で明らかになったこと（成果）

「学校のまわりのようす」を学校から数百メートルくらいの範囲で学習することが多いが、ここではその範囲を学区全域に広げた。学校から数百メートルの範囲ではほとんどが田や畑であり、土地の様子の特徴をとらえることができないからだ。その結果、全員で見学をすることに無理があることがわかった。このため、生活科で実施したグループで観察する方法を導入した。これでも観察できない範囲については、登下校の際に観察させたり、家の人に尋ねたりさせた。このことによって、自分たちの調べたい場所を観察することができたために観察に対する意欲を喚起することができたばかりでなく、児童が活動する場面を多く与えることができる結果になった。

小単元の終末にパンフレットづくりを導入した。3年生の1学期という時期から、生活科とのかかわりをふまえて導入した方法である。イラストをベースに短い文を書き入れる表現方法なので、すべての児童に取り組みさせることができた。また、B児のパンフレットにある「川をきれいにしたい。」のように、全員ではないが、地域社会を大切にしようとする記述が見られた。ここで実施したパンフレットづくりの効果だと思う。

(2) 夏季大会で討議してほしいこと

学校を中心に、地域を東西南北の4つに分けて、それぞれの土地の様子の違いを明らかにさせることによって、「学校のまわりのようす」を理解させようとした。この時に、方位と社会事象とを結びつけて表現できたならば、社会的なものの見方や考え方が身についていると考えたが、これでよいか。パンフレットづくりにおいても、そこに地域に対する願いや夢（地域の実態にあったもの）が表現されていれば、社会的なものの見方や考え方が身についたと考えたが、これでよいか。

まとめる段階では、個を重視した場合、どうしても独りよがりなやり方でまとめがちである。

だが、社会的な見方・考え方をより広いものにするためには、やはりオープンエンド的な「広げる」段階が必要であると考え。その点、県から出された研究の方向と差異が生じたが検討してほしい。

(3) 今後の課題

自分なりの方法でまとめた児童の作品のよさを、他の児童に効果的に知らせるようになるための手立てと評価。

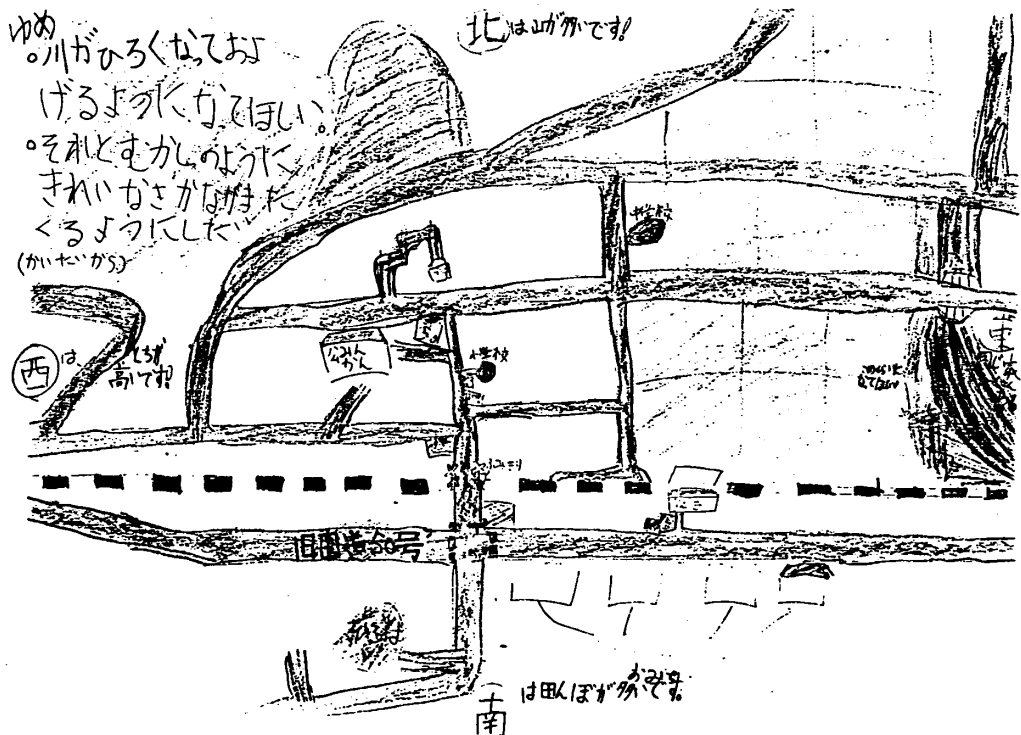
おわりに

今年度は研究主題「一人一人の社会的なものの見方や考え方を深め合う社会科授業の創造」の最終年度としての実践研究であった。副主題「一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせる授業の展開」の面から単元構想をたて、授業実践し、夏季塩原大会（5年8月5・6日）で提案・発表そして協議してきた。いくつかの点で成果はあったものの、まだまだ研修・研究をすべき点が多いことも実感した。

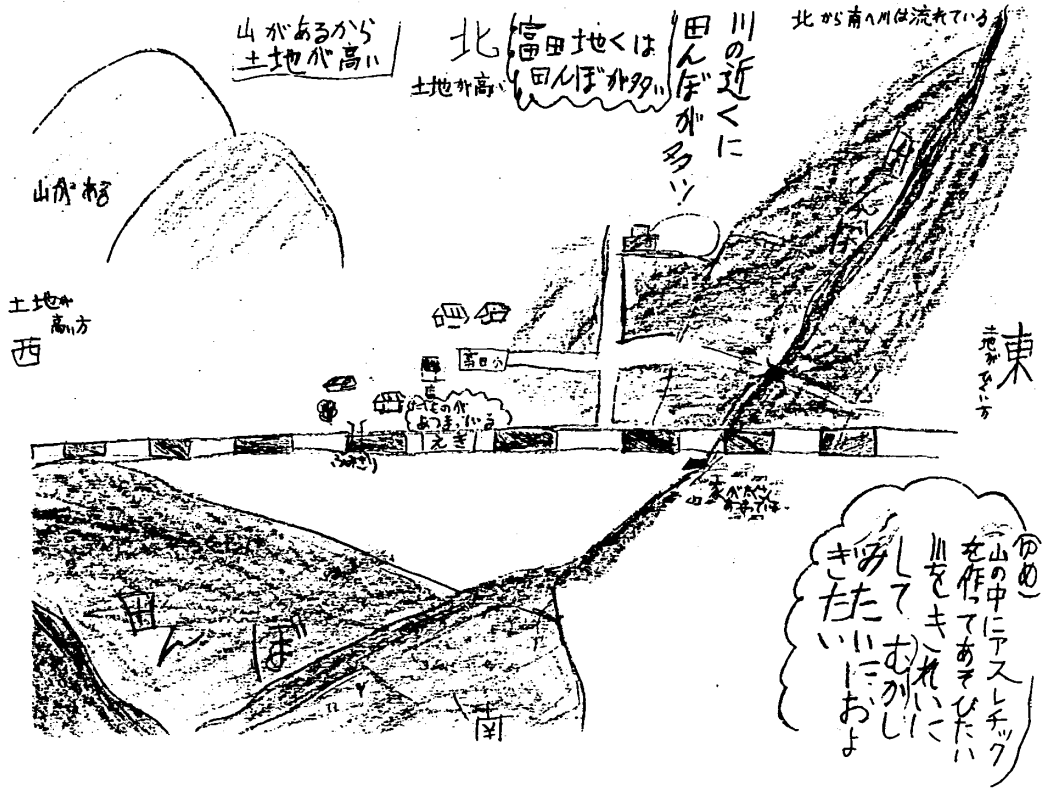
来年度からは、新たな研究主題の1年次の研究に取り組むことになると思うが、足利地区の社会科教育のますますの充実発展を願ってやまない。

—児童の作品例—

〈対象児A児のパンフレット〉



<対象児B児のパンフレット>



評

これからの社会科の授業においては、子供一人一人が主体的に学習に取り組み、自分なりの社会的なものの見方や考え方を身に付けることができるようにすることが大切である。

そのためには、問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れ、子供たちが社会的事象と進んでかかわりながら、社会的なものの見方や考え方を身に付けていくことができるように授業を工夫改善する必要がある。

このことを踏まえ、本研究は、研究テーマに「一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせる授業の展開」を掲げ、特に「まとめる」段階に重点をおいて、社会的なものの見方や考え方の定着化を図るための指導の工夫を通して、これまでの社会科の授業を見直し、一層の改善・充実にむけて実践的に研究したものである。特に、

- 子供のよさや可能性を生かす教育を進める観点から、児童の学習意欲や関心、学習内容にかかわる知識・理解、生活経験、学習適性、社会的な事象に対する見方や考え方などの実態把握を行うなど丁寧に児童理解を図っている。
- 一人一人に社会的なものの見方や考え方を身につけさせるため、深い児童理解をもとに教師の支援を位置付けた単元レベルの展開計画を構想し、指導に取り組んでいる。
- 子供たちが自分の考えに基づいて一層主体的に、活動的に学習に取り組むようにするため、グループでの観察や見学、調査などの活動をはじめ、家の人から話を聞く、友達の調べたことを吟味し絵地図に表すという様々な体験的な学習活動を授業に組み入れるとともに、一人一人のまとめ（広げる段階）として、自分の願いをいれた地域のパンフレット作りという表現方法の工夫がみられる。

など、多くの成果をおさめている。

本研究における数々の成果が、各学校において大いに活用されることを期待します。